

Special Essay

研究生活に役立つ本

分子生命科学研究所長

児島 将康

有名な研究者が書いたエッセイやインタビュー記事などをよく読む。どうやって研究上の困難を乗り越えて成功したか、非常に勉強になるし、刺激されるからだ。研究分野以外の本でも、研究生活に役立つ本が古典的なものから最新のものまで沢山ある。その中で私のお気に入りを3冊紹介したい。まず新しいものから。

1, 采配：落合博満

もちろん言うまでもなく、中日ドラゴンズの監督だった落合博満氏の野球に関する本であるが、セクションの表題を見ると、まるで研究の世界で悩める若手に向けてのメッセージのように思える。「いつもと違う」にどれだけ気づけるか」「データに使われるな。データを使え」「初」には大きな価値がある」「大きな成果を得るためには、一兎だけを追え」「なんでもアメリカ流でいいのか」「30代になにをやるかで、40代は決まる」などなど、本当に研究者に向けての本なのかなと思ってしまう。例えば「大きな成果を…」の項には、「自分の目標を達成したり、充実した生活を送るためには、必ず一兎だけを追い続けなければならないタイミングがある」と、なにかを犠牲にしても（研究に）没頭しなければならないこともあると説いている。また他の部分には「不安もなく生きていたり、絶対的な自信を持っている人間などいない」と、現在の厳しい研究環境で生きていくのに不安をもつ若手研究者を勇気づけるかのようだ。研究がうまくいかず悩んでいる方にはお勧めです。

2, 誕生日大全

みなさん占いは好きですか？科学の世界に身を置くものとしては、（あまり）科学的でない占いを信じたり、神頼みなどはもってのほかだろう。でも信じる信じないは別として、私は結構占いが好きだ。占うのは、もっぱら本によってだが、その中でもお気に入りがこの本。誕生日ごとにその人の「運勢」「隠された自己」「仕事と適性」「人間関係」などが書かれている。ちなみに私の誕生日（10月4日）ではまず「冒険心があり考え方が独創的」とある。その他にも「創造性豊か」「鋭い洞察力を備え」「勤勉である」「職人の技を持っている」とかのほめ言葉が並び、自分は研究者向きなのかも思う。しかし、

適した職業は研究者や科学者とは書いていない。また短所では「すべきことを先延ばしにする」と痛い点を指摘されている。結局、自分にとっていいところだけを信じて、「うまくいく」とモチベーションを上げるために占いを見るのだが、これも研究生活のストレスを解消する一つの手段だろう。街角の占い師に占ってもらったことはないが、今度は一度トライしてみようか？！

3, 後世への最大遺物：内村鑑三

素晴らしい業績を残せる研究者なんてほんの一握り。大部分の研究者は自信をもってこれだと誇れる研究成果などなしに研究人生を終える。そんな目立った業績もない平凡な研究者は、研究人生を生きてきた証にいったいなにを残せるのか？答えはたった 567 円のこの本の中に！

